

会場名	サブリーダー	
	役職	氏名
大阪国際会議場 10 階 1006・7 号室	次年度ポリオ・プラス小委員会 委員長	高士 誠司
	次年度資金推進小委員会 委員長	岩佐 嘉昭
リーダー 役職・氏名	次年度補助金小委員会 委員長	村橋 義晃
パストガバナー・福家 宏 (財団委員会 委員長)	次年度財団資金管理小委員会 委員長	瀬川 昇
	次年度奨学金小委員会 委員長	柳山 稔
議事録作成者	副SAA 高田 充史 上林久美子(大阪西南RC)	

開会 :	(15時 15分)
発表者 :	パストガバナー / 地区ロータリー財団委員会 福家 宏 委員長
<p>【記録内容】開会の挨拶 ロータリー財団について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロータリー財団の定義 ・ロータリー財団の使命 <p>1. 財団のあゆみ</p> <p>1917 年国際ロータリー連合会基金創設以降のあゆみについて 皆様からの寄付は世界各地での奉仕活動に役立てられている →創立以来 100 年間 30 億ドルの資金を提供 ロータリー財団の外部評価 (米国チャリティー・ナビゲーター) は 財団を四つ星(最高評価) に格付け</p> <p>2. 財団のプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリオ撲滅 約 30 年の取り組みで症例数は 99.9%減少 症例数 1985 年 35 万例、2011 年 650 例まで減少、近年は 40 例を切る 2013 年 416 例 2015 年 74 例 2019 年現在 6 例 ・ロータリー平和センター 平和活動に貢献する人材に奨学金を提供 平和フェローが研究生活をする大学 (世界に 6 大学、日本は国際基督教大学) 平和フェロー 当地区で 1 名が財団により承認 ・補助金 (地区補助金とグローバル補助金) プログラムについて 人道奉仕や奨学金、職業研修に利用される ・地区補助金 小規模で短期間の活動が対象 ・グローバル補助金 3 万ドル以上の規模 奉仕活動も効果も持続性も問われる 財源は皆様の年次基金寄付 的確な利用 効果の持続性の追求 克明な報告書 	

次年度R財団管理委員長 ゲイリーC. K. ホアン氏

3. 次年度 財団目標

年次基金 1億4000万ドルへ

ポリオ基金 5000万ドル

恒久基金 年間7500万ドル

DDFを最大限に活用

地区目標

年次基金寄付 150ドル/1人

ポリオ・プラス基金 50ドル/1人

恒久基金 1000ドル/1人/クラブ

発表者： ポリオプラス小委員会 高士 誠司 次年度委員長

(15時 25分)

【記録内容】ポリオ撲滅について

ポリオ撲滅について

- ・ポリオという病気

小児まひ 感染しやすいのは5歳未満の子ども 人から人への感染 ワクチンで予防可能

- ・プラスの意味

当初ポリオと共に子どものかかりやすい伝染病（はしか・結核・ジフテリア・百日咳・破傷風）の5つを“プラス”して同時追放を目指した

当初と意味が変わり、世界的なポリオ撲滅運動がもたらした遺産（ポリオがこの世界からなくなった後にも、ほかの感染症との闘いを支えていくインフラと協力体制）を指す

→ポリオ以外のワクチンや予防接種活動にポリオ制圧と撲滅のための寄付金を使わない、と決定している。しかし、他のロータリー財団の人道的プログラムの下では利用できる、と考えている。

- ・ポリオプラスプログラムの概要

1979年フィリピンの600万人の児童にポリオの予防接種の5カ年計画を実施。

1985年ポリオプラス・プログラムが発足。1億2千万ドルを募金する声明を発表。

1988年国際ロータリーとWHOが「世界ポリオ撲滅推進計画（GPEI）」を立ち上げる。

- ・ポリオプラス・その歴史

- ・世界のポリオ症例数 99.9%減少（1997-2015）

課題「0.1%」との闘い

予防接種活動が困難な理由

- ・遠隔地（地理的な隔離状況）
- ・不十分な公共インフラ（圧倒的インフラ不足）
- ・紛争（戦争・テロ）
- ・文化的障壁（宗教上の理由など）

この間世界中の国が「再発生リスク」に晒される

・ポリオの現況

常在国 2 カ国 (パキスタン・アフガニスタン)

発症数 33 件 (2018 年) → 6 件 (2019 年 1 月 1 日～3 月 20 日)

1980 年代と比較して 99.9%の減少

・野生株によるポリオ症例数

残る国は 3 カ国だけなのになぜ 15 億ドルも必要？

→ 3 カ国で感染を断ち切らなければならない

→ 「ポリオフリー」となった国にウイルスが流入しないようにする必要がある

流入のリスクが高い国々は最高 60 カ国とされ、現在も一斉予防キャンペーンが続いている

・ポリオを撲滅するために

2017 年財団 100 周年のアトランタ国際大会でロータリーををはじめ寄付国、寄付団体が「ポリオ撲滅に 13.6 億ドルを寄付する」と約束

ロータリーは 3 年間で 1 億 5 千万ドル (年間 5 千万ドル) を約束

ビル&メリンダ・ゲイツ財団も倍額を上乗せしてきたマッチングを継続、合わせて 4 億 5 千万ドルの提供を約束

・資金の用途

(撲滅活動の運営・医療従事者の確保・研究所の設備・保健従事者と親への教育など)

・ポリオを撲滅すべき 5 つの理由

子どもたちを守る

撲滅は実現可能

投資効果 (撲滅による経済効果)

医療システムの強化 (ポリオ感染症に対する関心のネットワーク強化)

世界的な公共保健活動のモデル

ポリオ撲滅はロータリーが中心的役割を果たす公共保健モデル、かつ実現すべき目標

発表者： 資金管理小委員会 瀬川 昇 次年度委員長

(15 時 40 分)

【記録内容】資金管理について

- ・奉仕活動と補助金の関係
- ・補助金を利用する上での責任

ロータリーの補助金

ロータリー財団の補助金制度

国際奉仕 グローバル補助金・地区補助金

社会奉仕 地区補助金

2 つの補助金制度 (地区補助金とグローバル補助金)

- ・地区補助金活動

実例①社会奉仕

実施国：地元社会（日本）

活動：児童福祉施設の子供たちにラグビートップ選手の講話・ラグビー体験・ラグビーボール
寄贈

提唱者：大阪南 R C

総費用：1,180,018 円

資金調達：クラブ拠出金 580,910 円 追加拠出金 18,198 円 2660 地区補助金（D G）580,910
円

実例②人道的国際奉仕活動

実施国：海外（バングラディシュ）

活動：ミシンと P C を寄付し女性の職業訓練の支援、現地の子供たちとの交流

提唱者：大阪西 R C

総費用：916,300 円 （ミシンと P C を寄付）

資金調達：クラブ拠出金 468,050 円 2660 地区補助金（D G）448,250 円

・グローバル補助金の要件

6 重点分野・プロジェクト予算 30,000 ドル以上・実施国と援助国のロータリーが代表提唱
・成果が測定可能で継続性がある・補助金センターからオンラインで申請

・グローバル補助金の 6 重点分野

平和と紛争予防/紛争解決・疾病予防と治療・水と衛生・母子の健康・基本的教育と識字率向
上・経済と地域社会の発展

・グローバル補助金の資金調達

・申請のポイント

代表提唱者・協力団体（協力団体の覚書）・研修や教育（研修計画書）・地元の財源

・地区補助金の申請要件

（人道奉仕・奨学金・職業研修）

地区から資格認定を受けなければならない・ロータリアンが積極的に関わる（財政援助にとど
まらない）・人道的に重要度が高く、受益者が経済的に困難であること・他団体の継続的運営
費（ランニングコスト）は不可・1 年以内に完了するプロジェクト・ロータリアンは補助金の
恩恵を受けられない（利害の対立の回避）・青少年プログラム（R Y L A、R A C など）への支
援には補助金は使えない

・地区補助金の申請額

40 万円以上限度額（国内 60 万円・海外 100 万円）

・クラブ寄付実績による補助金分配率

前年度平均年次寄付実績（1 人当たり）150 ドル以上であれば補助金額 100%受けられる
100 ドル以上 90%、99 ドル以下 80%

・地区補助金の申請スケジュール

2月2日 補助金管理セミナー受講・MOU提出

3月1日～4月30日 クラブから地区補助金小委員会へ申請書提出・審査
受付順に審査

5月初旬 地区から財団へ一括申請

7月以降 財団より地区へ入金があり次第、クラブへ補助金配分

・年次基金の流れ

3年前の年次基金寄付の50%地区財団活動資金(DDF)

50%→地区補助金(DG) 残り50%がグローバル補助金(GG)

3年前の年次基金寄付残り50%は国際財団活動基金(WF)がGGに上乗せ

・クラブの資格認定

資格認定のプロセスについて

補助金管理セミナーについて

・覚書(MOU)の注意点

4. 銀行口座に関する要件

- ・専用口座の開設
- ・2名以上の会員による入出金管理

5. 補助金資金の使用に関する報告書

- ・報告書の提出期限厳守
- ・活動や物品購入の事前変更届け(地区財団委員会に)必須
- ・補助金を含む事業予算と領収書の金額一致、未使用分の返還

・地区補助金の報告書

報告要件

- ・中間報告書(少なくとも)補助金口座の通帳コピー添付
- ・最終報告書 補助金口座の通帳コピーと領収書原本添付

中間/最終報告書作成の留意点

- ・報告書の収入および支出欄と通帳口座の入出金記録が整合
- ・利息も収入として計上
- ・領収書は全て提唱クラブ名で発行された原本であり、日付や但書が明記されていること
- ・領収書の発行者は、購入業者であること(受益者や協力団体や共同提唱ロータリークラブ発行の領収書は不可)
- ・領収書は経費の支出内容がわかるように但書が記載されていること
- ・領収書やその他会計書類が他言語の場合、和訳を添付すること
- ・報告書の提出期限を遵守すること

<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書の場合も、通帳コピーを添付すること ・ 報告書支出欄の各項目と領収書に整理番号をふること ・ 活動完了後の口座の残高はゼロにすること
<p>発表者： 補助金小委員会 村橋 義晃 次年度委員長 (15時 55分)</p>
<p>【内容】 ロータリーの補助金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区の役割 <ul style="list-style-type: none"> 「クラブと地区の関係を再認識」 地区の役割はロータリークラブを支援し、その取り組みをさらに高める目的 ・ 補助金小委員会の役割 <ul style="list-style-type: none"> ロータリー財団補助金活用の条件に基づき円滑に手続きが行えるよう クラブをサポートする 地区補助金 (DG) グローバル補助金 (GG) ・ 地区補助金・グローバル補助金活用の近年実績について <ul style="list-style-type: none"> 地区補助金は約 35 件、グローバル補助金は 5 件前後で推移している 2019 - 20 年度 地区ビジョン 財団補助金活動 50 件 を達成目標
<p>発表者： 補助金小委員会 今西 良介 委員長 (16時 5分)</p>
<p>【内容】 ロータリーの補助金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金プログラム <ul style="list-style-type: none"> 補助金ハンドブックの活用 (当地区は地区指折りの申請件数) ・ 地区審査と財団審査のちがい <ul style="list-style-type: none"> 地区補助金現在 15 件の提出 50 件の目標に不足 4 月 2 日に 2 次募集中 ・ 2019-20 年度申請要件改訂 (地区補助金) <ul style="list-style-type: none"> 地区 DDF 審査 地区補助金申請要件の改訂について 地区補助金にローターアクトクラブとの合同による事業も申請可 上記であれば 1 クラブ 2 申請も可 * 但し、どちらかが一方がローターアクトクラブと合同による人道奉仕活動であること ・ 財団 GG 審査：補助金担当職員に申請前の事前相談も可能に
<p>発表者： 資金推進小委員会 岩佐 嘉昭 次年度委員長 (16時 15分)</p>
<p>【内容】 財団寄付と認証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財団への寄付推進 <ul style="list-style-type: none"> 2019 年-20 年度年次基金寄付 目標 1 人当たり 150 ドル以上を

2019-20 年度 恒久基金寄付 目標 各クラブで1人以上のベネファクターを
 2019年-20年度ポリオプラス 目標 1人当たり 50ドル以上を
 ＊別紙クラブ別年次基金寄付一覧参照

・財団への寄付・ポリオ 2017-18

クラブ別 一人当たりの年次寄付実績 \$ 150 以上 74% (2018. 6. 30 現在)

個人別 一人当たりの年次寄付実績 地区平均 (/人) \$ 193. 43

地区年次寄付合計 \$ 690. 550 (2018. 6. 30 現在)

クラブ別 1人当たりのポリオ・プラス基金寄付実績 \$ 50 以上 62%

地区平均 \$ 48. 42 (2018. 6. 30 現在)

・財団への寄付推進

- ・ロータリー財団活動の透明性
- ・寄付金使途の自主性
- ・税制上の優遇措置
- ・募金方法の工夫

・ロータリー財団への寄付は財政上の優遇措置の対象

「所得控除」または「税制控除」

・募金方法の工夫

- ・ロータリーの恒久基金への寄付 2025年までに 20億 2500万ドル

・財団寄付の認証について (表参照)

・ポール・ハリス・ソサエティ (PHS) の紹介

これまで毎年 1,000ドルの寄付をした実績必要なし

ソサエティ入会時に、すぐに 1,000ドルを寄付する必要なし

(年度内に少額にわけて寄付する)

現在の会員数 33名 (2019年3月3日現在)

・ロータリークレジットカードの紹介 (利用料金の 0.3%~0.5%と年会費の一部が財団の寄付に)

2015-16年度のロータリーカードによる寄付総額 約 1005万円 (利用額約 14億円)

発表者： 奨学金小委員会 柳山 稔 委員長

(16時 35分)

【内容】ロータリー財団奨学金

・財団奨学金プログラムについて

奨学金小委員会のご紹介

・財団の奨学金プログラム

- ・地区補助金による奨学金
- ・グローバル補助金奨学生

・平和フェローシップ

・奨学金プログラム比較について

地区補助金による奨学金・グローバル補助金奨学生・平和フェローシップ

地区補助金による奨学金 地区補助金を利用するにあたっては半分は自クラブで拠出

グローバル補助金奨学生 就学対象：大学院レベル 9月～10月公募 11月選考

平和フェローシップ 2002年創設 17年目

・2660 地区におけるグローバル補助金奨学生応募者/合格者状況

・グローバル補助金奨学生紹介

2017-18 年度 バッティエー亜夢斗さん 6重点分野：平和と紛争予防/紛争解決

2019年3月より国際化学兵器禁止機関（O P C W）で日本政府代表団専門調査員として赴任

渡辺 栞さん 6重点分野：平和と紛争予防/紛争解決

2019年4月よりヨルダンにて国連食糧計画（W F P）のシリア難民の生計向上担当として赴任

2018-19 年度 高城 大吾さん 6重点分野：平和と紛争予防/紛争解決

現在留学中

・平和フェローシップ紹介

2018-19 年度 平和フェローシップ 山口 真理子さん スウェーデン ウブサラ大学

2019年9月より留学予定

閉会

(16時 55分)

備考・メモ



4月26日(金)までにガバナー事務所宛てにお送りください。
返信先：ガバナー事務所 E-mail : funahashi@ri2660.gr.jp